

- まえがき 井村 治 (3)

- 独立行政法人の現状と課題について 独法の「見直し」とは何だったのか

池長裕史 (4)

要旨：農林水産省傘下の独立行政法人の第1期中期目標終了時の「見直し」の経緯をふり返り、研究開発等を行う独立行政法人に求められている課題について問いかけたい。「独立行政法人」というだけで「天下り組織」「非効率」の温床のように描かれているが、研究開発機関が真に役割をはっきするための見直しの視点は「効率化」のみではないはずである。

- 国立試験研究独法はどう見直されるか 整理合理化計画と事業仕分け

安達雅樹 (10)

要旨：国立試験研究機関は独立行政法人という組織に変わったことで、常に行政改革の対象となった。特に自民党政権下で閣議決定された2007年の整理合理化計画では研究所の整理統廃合などが勧告され、2009年の民主党政権下で実施した事業仕分けでは行政機関としての業務見直しや次年度予算の縮減が言い渡された。本稿では両者の経緯を解説しその問題点を指摘する。

- 公設試験研究機関の再編・独法科の現状と問題点

横山敏郎 (16)

要旨：地方公設試験研究機関の再編と運営の見直しが全国的に進んでいる。とりわけ地方独立行政法人化が多くの自治体で検討されてきており、本稿ではその現状と問題点を報告する。また、再編のあり方や地方公設試験研究機関としての役割なども考察する。

- 研究機関の評価のあり方について 研究現場からの提言

中嶋信美 (22)

要旨：2007年5月に国立試験研究機関全国交流集会実行委員会が実施した「第1期中期計画終了後の組織評価のアンケート調査」の結果、現状の組織評価には「予算削減ありき」など多くの問題点がある。政府の掲げる「科学技術政策目標」を達成するためにどのような組織評価がなされるべきなのかを、研究現場の声を紹介しながら提言した。